

研究者と話そう

■時間：14:30～15:30(予定)
(常設展示場の観覧料が必要です。)

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。



マスク・フェスティバルの様子
(パプアニューギニアのラバウルにて)

・実施日・話者・話題・場所

※都合により、予定を変更することがあります。

8月3日(日)

杉本 良男 (民族社会研究部教授)
ファッションがつくるインド
(Fashioning India)
於:南アジア展示

8月10日(日)

林 勲男 (民族社会研究部准教授)
仮面文化と観光:パプアニューギニアの場合
於:オセアニア展示、常設展示場入口

8月17日(日)

山中 由里子 (民族文化研究部助教)
「涙壺」をめぐる比較考
於:常設展示場入口

8月24日(日)

崔仁宅 (外国人研究員 客員)
韓国人研究者がみた
ちゅらさんの島 小浜島
於:日本の文化展示、常設展示場内休憩所

8月31日(日)

西尾 哲夫 (民族文化研究部教授)
宝塚歌劇と日本人の
アラビア幻想
於:西アジア展示

編集後記

今年度から『月刊みんなく』にインタビューのコーナーが戻ってきた。「みんなくインタビュー」である。復活第1弾は6月号のヨーゼフ・クライナーさんと、8月号は人間文化研究機構の2代目機構長になられた金田章裕さんである。

このインタビューは『月刊みんなく』が創刊されたときには「館長対談」という名前で、初代梅棹館長が、いろいろな分野の第一線で活躍する人と対談するものだった。対談に出演したのは学術分野だけでなく、芸術、スポーツ、政財界などじつにさまざまな分野で活躍していた人びとで、当時の民博に関心をよせる人びとの裾野の広さを物語っていた。さらに梅棹館長の軽妙でときに鋭く核心を突く質問と、それに対する対談者の対応が絶妙の緊張感をただわらせて、読む人を飽きさせなかった。最終回が182回(1993年3月号)であることから、梅棹館長は一人で182人を相手にしたのである。

梅棹館長退任後は「みんなく・いんたびゅー」という名前で、おもに編集長が聞き手となって続けられたが、2004年4月号から編集方針が変わったこともあり、このコーナーは廃止され、特集が組まれることになった。それが今年になって復活したわけである。今のところ特集の合間に企画されているために、毎月登場するわけではないが、このインタビューコーナーも大切に育てていきたいと考えている。(佐々木史郎)



次号予告/9月号特集
サンゴ

2008年8月号 第32巻第8号通巻第371号
2008年8月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎
庄司博史 中牧弘允 三尾 稔
山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます

交通案内

■大阪・千里万博記念公園内

- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

